

企画総務委員会 送付30-14

千代田区の環境と歴史を守る神田警察通りの街路樹の保存を求める陳情

受付年月日 平成30年9月18日

陳情者

## 陳情書

### 千代田区の環境と歴史を守る神田警察通りの街路樹の保存を求める陳情

2018年9月18日

皇居の東に延びる神田警察通りには、樹齢 50～100 年とみられるイチョウを中心にケヤキやその他の大木が約 180 本、今日まで立派に育ち、約 1.3 kmの並木が続いています。東京都の「街路樹マップ」をみても、この道が千代田区内を東西に走る貴重な並木道であることがわかります。

一昨年、私たちは陳情し、多くの議論を経て、神田警察通りの美しいイチョウ並木が保存されました。ところが保存が決まったのは I 期工事分（共立女子学園と学術情報センターの間、約 200m）だけで、残りの工事区間（学士会館横から神田駅まで約 1100m）は未定と知り驚いています。I 期分だけでなく、全体として並木を保存し、周辺環境と歴史を守る並木道として後世に残していただきますように陳情する次第です。

今年日本は未経験の猛暑に襲われました。東京都心ではヒートアイランド現象が悪化し、国際的なイベントや観光客の増加を前に対応は急務です。急激な都市化やビル化に比して緑地や緑化が不足しているのは明らかです。

樹木は豊かな枝葉で緑陰を作り直射日光を遮るだけでなく、葉から水蒸気を蒸散させ、その時、周囲の熱気を気化熱として利用するので周辺の温度が下がります。このような樹木の働きは大木ほど大きく、若木の働きは著しく減少します。従って樹齢の大きい大木は地域の資産であり、さらに大きくなるよう努めながら、自然の作用を利用してヒートアイランド等の都市問題を解決することが求められます。

また千代田区としての重要性もあります。神田警察通りと神田周辺は幕末以降の日本の学問と教育の中心地です。神田警察通りには日本を代表する学校がいくつも生まれました。千代田区が誇るかけがえのない地域史であり、並木道はその歴史を今に伝えています。今も多くの学生がこの道を利用しており、動植物の生命への配慮も必要です。

東京オリンピックを前に都心の樹木とりわけ大木が減る傾向の中、「環境モデル都市」であり皇居を擁する千代田区は、古くからの並木道と樹木を率先して守っていく姿勢を示して欲しいと願うばかりです。長期的な視点に立って、期待された役割を担っていただきたく、署名を添えて陳情いたします。



以上